



令和3年9月1日現在
世帯数 2,883 世帯
男 3,310 人
女 3,424 人
総人口 6,734 人

小学生と一緒に ひろばウォーキング

7月7日(水)に小学生との交流事業で、島立小学校3年1組の児童と福祉ひろばを利用して地域の方々と一緒に、ウォーキングしながら永田・町区の化粧道祖神と亀田屋酒造へ見学に行きました。

まずは、永田の化粧道祖神の前で町会長さんからお話をいただきました。毎年2月中旬頃、こちらの化粧道祖神の色塗りが恒例行事とされ、地区の子どもたちが色を付けることで日頃見守ってくれている神様に感謝しているのではないかと思います。

次に、亀田屋酒造へ行き、今回は母屋の中を見学させていただきました。130余年前にタイムスリップした気持ちで子どもたちは大興奮でした。明治時代の道具がそのまま残っていて、箱階段が印象的でした。また、亀田屋酒造の代表の方から説明をいただき当時の様子を知る事ができました。子どもたちも大人も貴重な体験でした。

福祉ひろばではウォーキングを開催しています。皆さん、ぜひ一緒に歩きましょう。



亀田屋酒造さんのご厚意で見学できました



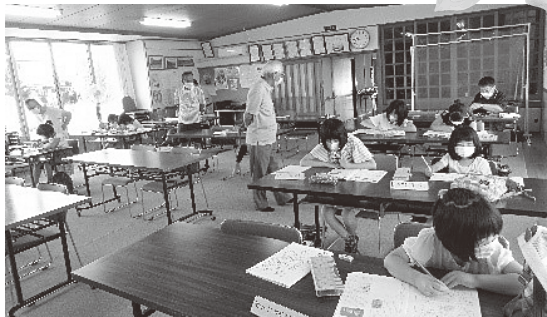
亀田屋酒造前にある町区の化粧道祖神



町会長から説明を受ける子どもたち(永田)

第3回 夏休みサマースクール

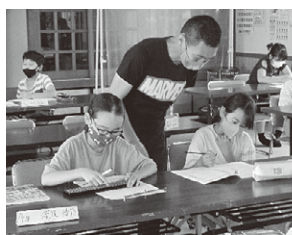
寺子屋大庭未来塾
代表 藤森 保治



1年生から6年生まで大勢の児童が参加してくれました



視界を塞がれた世界で子どもたちは何を感じたでしょうか



大勢の地域ボランティアさんにご協力いただきました

7月26日から5日間、第3回夏休みサマースクールを開きました。島立全体から学年を問わず、延べ60人近い児童と40人近い地域ボランティアの参加があり、コロナ予防策としては「うつさない、うつらない」のもと、毎日の検温や健康カードの提出など、ルールに従い意識の高い生活を送れたようです。開館40分前には、児童が既に玄関前に来ており、こちらもピッタリ。

内容は、夏休み帳の学習とチャレンジ教室

7月26日から5日間、第3回夏休みサマースクールを開きました。島立全体から学年を問わず、延べ60人近い児童と40人近い地域ボランティアの参加があり、コロナ予防策としては「うつさない、うつらない」のもと、毎日の検温や健康カードの提出など、ルールに従い意識の高い生活を送れたようです。開館40分前には、児童が既に玄関前に来ており、こちらもピッタリ。内容は、夏休み帳の学習とチャレンジ教室

認知症キッズサポーターの誕生

7月30日のチャレンジ教室では、「社会生活を知る」というテーマのもと、包括支援センターの方から認知症について学びました。その後、社協の皆さんによる寸劇「迷子になったおばちゃん」を見ました。単に見るだけではなく、子どもたちも寸劇にチャレンジ。市の防災無線から時々流れる「行方不明者捜索のお願い」は、子どもたちにとっても耳慣れた様子で、取り組みは容易にできたようです。

小学生が目の前「迷子になったおばちゃん」と出会った時、どんなことを話し、どんなことをすればよいのか、考えながらアドリブ形式で挑戦してみました。今日のこの経験が、今後本当にその場面に出会った時、慌てず自信を持って行動できる強い力になったかと思えます。終わった後、社協より松本市キッズサポーター第1号の認定証をもらい、早速バッグにつけていました。



松本市認知症キッズサポーター第1号です!



町区・夏休み行事

まだひんやりとした朝方、神明社前のひろばでは、6日間あるラジオ体操初日に、児童・保護者が30人弱集まり、和やかに体を動かしました。

この後、町区の夏休み恒例ともろこし狩りに出かけました。生産者さんのご厚意で本出荷を終えた畑に入らせていただき、収穫の方法を教わるとともろこしジャングルの中へ分け入って行きました。

7時を過ぎると蒸し暑さを感じます。収穫を終えた子どもたちは、もろこしを抱えて朝露と汗で全身びしょり、靴は泥だらけでした。

町区では例年、花火や流しそうめんなどの夏祭りを行っています。午前には時間短縮した行事を行いました。

収穫後は神明社に戻り、野外で尻尾取りやドッジボール遊びを楽しみ、異年齢交流を深めました。1時間半ほど休憩を挟み、公民館で小規模な七夕祭りを楽しむ、盛り沢山の半日でした。



神明社のひろばでラジオ体操



ともろこしの収穫を楽しむ子どもたち



公民館で飾ろう! モミジのセタ

コロナの収束や家族の健康を願う短冊が多くありました

松本地方の七夕祭りは月遅れの8月7日に行われていきます。

安曇地区の稲核では、昔からモミジやカエデの木の枝を山から切ってきて玄関先に立て、七夕飾りを行う風習があります。モミジを使う理由は、竹の調達が難しい土地柄だったからか、はたまた別の理由があるのかはよく分かっていません。しかしながらモミジの七夕飾りは、葉の形が星形にも見える全国的にも珍しい伝統行事です。

島立公民館では7月21日から8月7日まで、稲核からモミジの木をいただき、玄関口ビーに飾りました。来館者や地域の子どもたちに願いごとを書いていただき、鮮やかに飾り付けることができました。

美術館アートレクチャー学芸講座 「染色家・三代澤本寿と松本の民藝運動」

松本市美術館の武藤学芸員を講師に、アートレクチャー学芸講座が8月3日(火)、島立公民館大会議室において開催されました。

戦後は、民藝を通じて松本の街を復興させようと三代澤は友人の丸山太郎と日本民藝協会長野県支部を立ち上げたのでした。運動が松本の街に根付いたころ、三代澤は協会から距離を置き、型絵染の作家として新たな作風の確立を目指しました。

松本市出身の三代澤は必死にその期待に応え、技を磨いたようです。

海外への取材旅行、登山、クラシック音楽などの趣味からの発想力、デザイン力は今見ても斬新で、森英恵など多くの著名人に愛されました。また、協会から離れたとはいえ、三代澤の生活には民藝運動の精神が生涯貫かれていたようです。優れた職人技を見出し、励まし、使い、育てる。日常を豊かにしてくれるモノとの出会いを大切にしたいと感じました。

講座はスライドを使って進められました。松本市は民藝運動との関わりが深いことで全国的にも知られています。が、今回はその背景に三代澤本寿という人物がどう関係していたのかの話のポイントでした。

「民藝」という言葉が生まれたのは大正末期。宗教哲学者の柳宗悦と陶芸家の河井寛次郎、濱田庄司が「民衆的工芸」の意味からつくった造語とのことです。

柳宗悦は型絵染の染色家として歩みだした三代澤の才能を認め、多くの仕事を与えることで三代澤の生活を支えたので



熱心に聴き入る受講者



柳宗悦(前列中央)と、日本民藝協会長野県支部の役員(1949年)

すすき(小柴)



なつぞら〜キングコ○グ対ゴ○ラ?〜

快適



南栗花火

